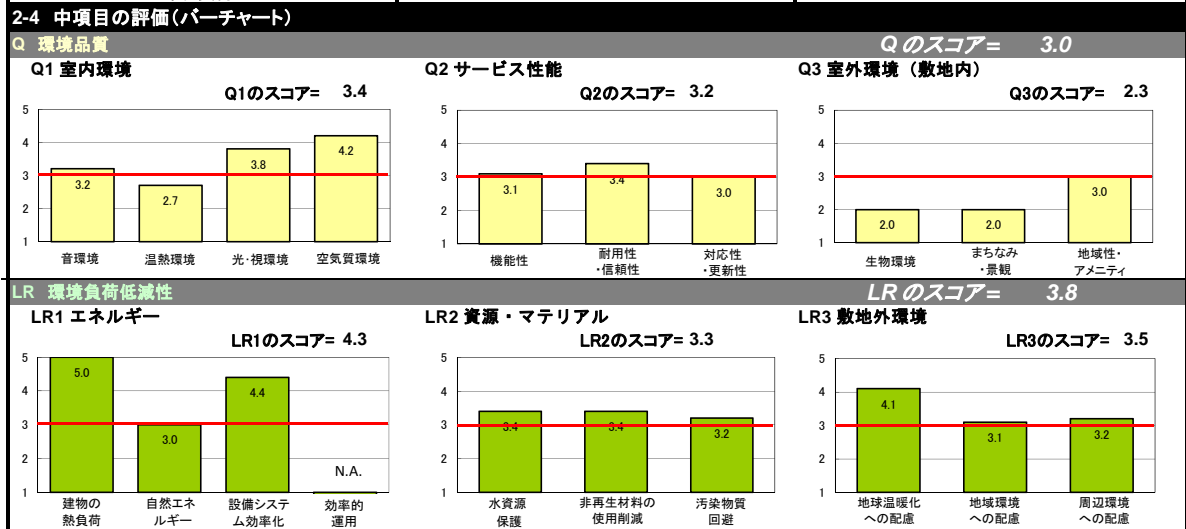
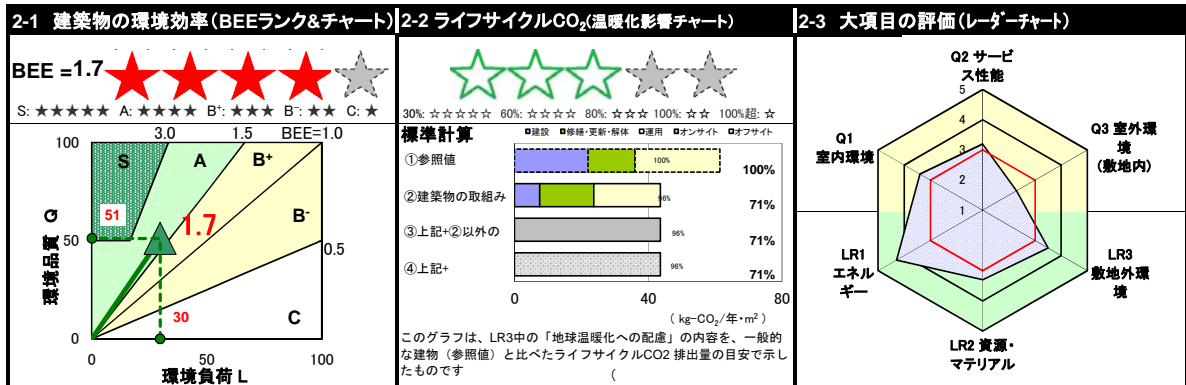


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) グランドメゾン安城	階数	地上15F
建設地	安城市末広町19番1 他13筆(底地)	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	4人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年12月 予定	評価の実施日	2015年3月6日
敷地面積	1,702.78 m ²	作成者	株式会社青島設計
建築面積	740.64 m ²	確認日	2015年3月9日
延床面積	7,842.97 m ²	確認者	株式会社青島設計



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.1</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">20.3 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.3</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用

Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	県独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								3.0
Q1 室内環境								3.4
1 音環境								3.2
1.1 騒音								
1 室内騒音レベル						3.0	0.50	
2 設備騒音対策						3.0	0.50	
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能						3.0	0.50	
2 界壁遮音性能				界壁に鉄筋コンクリートt=180を採用		3.0	1.00	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				Lr-45のフローリングを採用		3.0	0.30	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				Lr-50のボイドスラブを採用		3.0	0.20	
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1 室温						1.3	0.35	
2 負荷変動・追従制御性						1.7	0.50	
3 外皮性能						1.0	0.63	
4 ゾーン別制御性						3.0	0.38	
5 温度・湿度制御						3.0	-	
6 個別制御						-	-	
7 時間外空調に対する配慮						-	-	
8 監視システム						-	-	
2.2 湿度制御								
1 湿度						1.0	0.20	
2.3 空調方式								
1 空調方式						1.0	0.30	
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
1 昼光率				共用部:昼光率2.5%以上、住戸部:昼光率2.0%以上		3.0	0.25	
2 方位別開口						4.2	0.30	
3 昼光利用設備						5.0	0.60	
3.2 グレア対策								
1 照明器具のグレア				庇とカーテン、2種類の組み合わせ		3.0	0.40	
2 昼光制御						3.0	0.30	
3 映り込み対策						3.0	0.30	
3.3 照度								
1 照度						1.0	0.15	
3.4 照明制御								
1 照明制御						3.0	0.25	
4 空気環境								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質				化学汚染物質を放出しない建材を使用		4.2	0.25	
2 アスベスト対策						5.0	0.60	
3 ダニ・カビ等						5.0	1.00	
4 レジオネラ対策						-	-	
4.2 換気								
1 換気量						3.0	0.40	
2 自然換気性能						3.0	0.50	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.30	
4 給気計画						3.0	0.50	
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視						-	-	
2 喫煙の制御						3.0	-	
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性						3.1	0.40	
2 高度情報通信設備対応						3.0	0.40	
3 バリアフリー計画						3.0	1.00	
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観				天井高さ2.5m		3.0	0.30	
2 リフレッシュスペース						3.0	-	
3 内装計画						3.0	1.00	
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計				メンテナンス性に優れた建材や仕上げ、納まりの採用		3.5	0.30	
2 維持管理用機能の確保						4.0	0.50	
3 衛生管理業務						3.0	0.50	
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震								
1 耐震性						3.4	0.31	
2 免震・制振性能				免震装置を導入		3.4	0.48	
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数				住宅の品質確保の促進に関する法律における劣化等級3		3.0	0.80	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				外壁仕上げ、タイル貼を採用		5.0	0.23	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				壁・天井仕上げ:ビニルクロス		4.0	0.09	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.08	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				給水管:高性能ポリエチレン管、排水管:硬質塩化ビニル管使用		4.0	0.15	
6 主要設備機器の更新必要間隔						2.0	0.23	

2.4 信頼性				2.6	0.19			
1 空調・換気設備				1.0	0.20			
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20			
3 電気設備				3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5 通信・情報設備				3.0	0.20			
3 対応性・更新性				3.0	0.29	3.1	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり						3.2	0.50	
1 階高のゆとり			階高2.9m以上	3.0	-	4.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ				3.0	-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	1.00			
1 空調配管の更新性				3.0	0.17			
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			
6 バックアップスペース				3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.3
1 生物環境の保全と創出	●	③		2.0	0.30			2.0
2 まちなみ・景観への配慮	●	④		2.0	0.40			2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30			3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	●	④		3.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.8
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	4.3
1 建物の熱負荷抑制			住宅性能表示基準 5省エネルギー対策等級4を取得目標	5.0	0.40			5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20			3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用				3.0	0.50			
2.2 自然エネルギーの変換利用				3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化			CEC/L=0.16 CEC/EV=1.0	4.4	0.40			4.4
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				5.0				
集合住宅の評価				4.4				
4 効率的運用				-	-			-
4.1 モニタリング				3.0	-			
4.2 運用管理体制				3.0	-			
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護				3.4	0.15			3.4
1.1 節水			節水型便器の採用	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	1.00			
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	-			
2 非再生性資源の使用量削減				3.4	0.63			3.4
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	●	②		3.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組	●		LGs下地+仕上材	5.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.2	0.22			3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避				3.3	0.68			
1 消火剤			ハロゲン化消火剤の使用なし	4.0	0.33			
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.33			
3 冷媒				3.0	0.33			
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮		①	建物の劣化・省エネルギー対策に配慮しCO2排出を抑制	4.1	0.33			4.1
2 地域環境への配慮				3.1	0.33			3.1
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25			
1 雨水排水負荷低減	●			3.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			
3 交通負荷抑制	●		駐車台数:100%、駐輪台数121%	4.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制			ゴミ集積所の設置、ディスプレイの採用	4.0	0.25			
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33			3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			
1 騒音	●			3.0	1.00			
2 振動	●			-	-			
3 悪臭				-	-			
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制				3.0	0.40			
1 風害の抑制				3.0	0.70			
2 砂塵の抑制				3.0	-			
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制				4.4	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうらみに漏れる光への対策			発光部の点滅、動き、着色無し、広範囲な光の漏れなし	5.0	0.70			
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			

